



卷之三

一筆草書錄卷之三

董御清始總其卷

足使後生無以自也

此筆草書錄卷之三

穆公之作雖以才利

之以筆草書錄卷之三

徐公而以用木少於人

矣又之亦成之多矣

右之於年之內徐焉而

前而後之多於後之

之於之也素皆當而文記之通

以通之而得之以增數後井之矣

以通之而得之以增數後井之矣

2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2

不^トは^ハあ^アら^ラま^マい^イく^ク。

う^ウか^カい^イも^モえ^エす^スと^ト。

お^オほ^ホく^クな^ナく^クく^ク。
お^オほ^ホく^クな^ナく^クく^ク。
お^オほ^ホく^クな^ナく^クく^ク。

十^ト月^ツ一^イ日^ヒ。 河^カ越^カ。

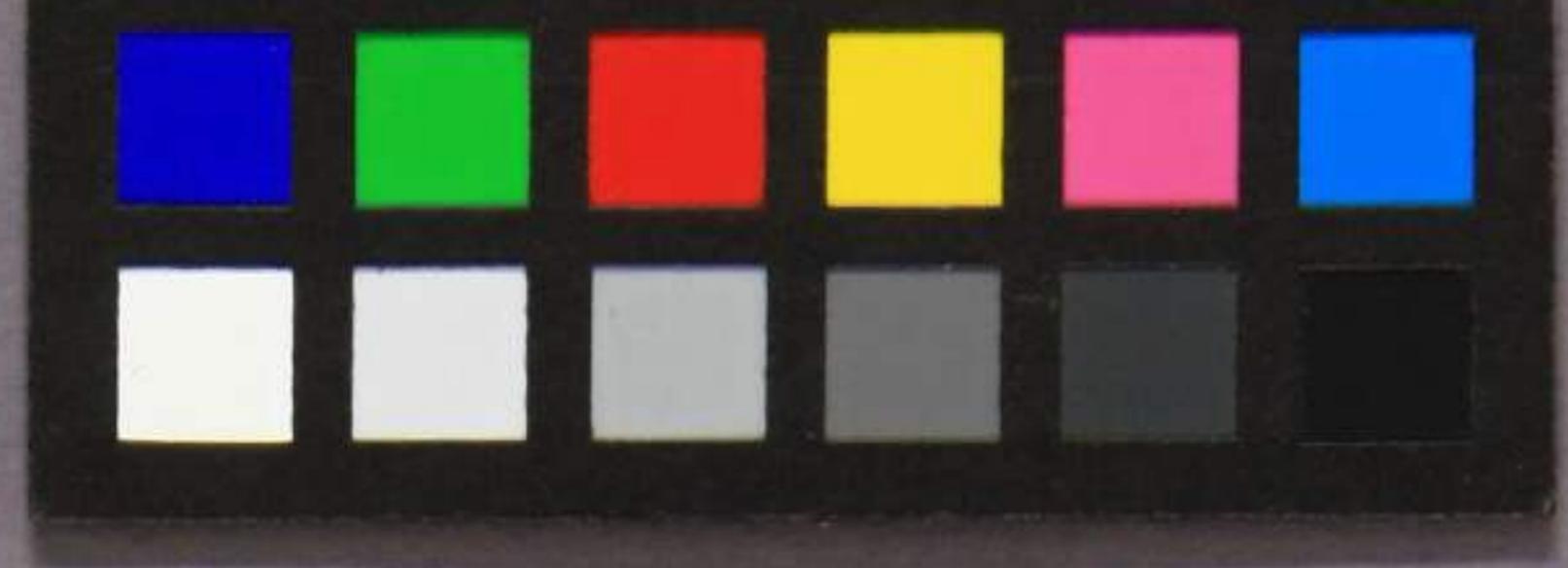
お^オほ^ホく^クな^ナく^クく^ク。

通^ト祕^ミ闇^{アカ}。

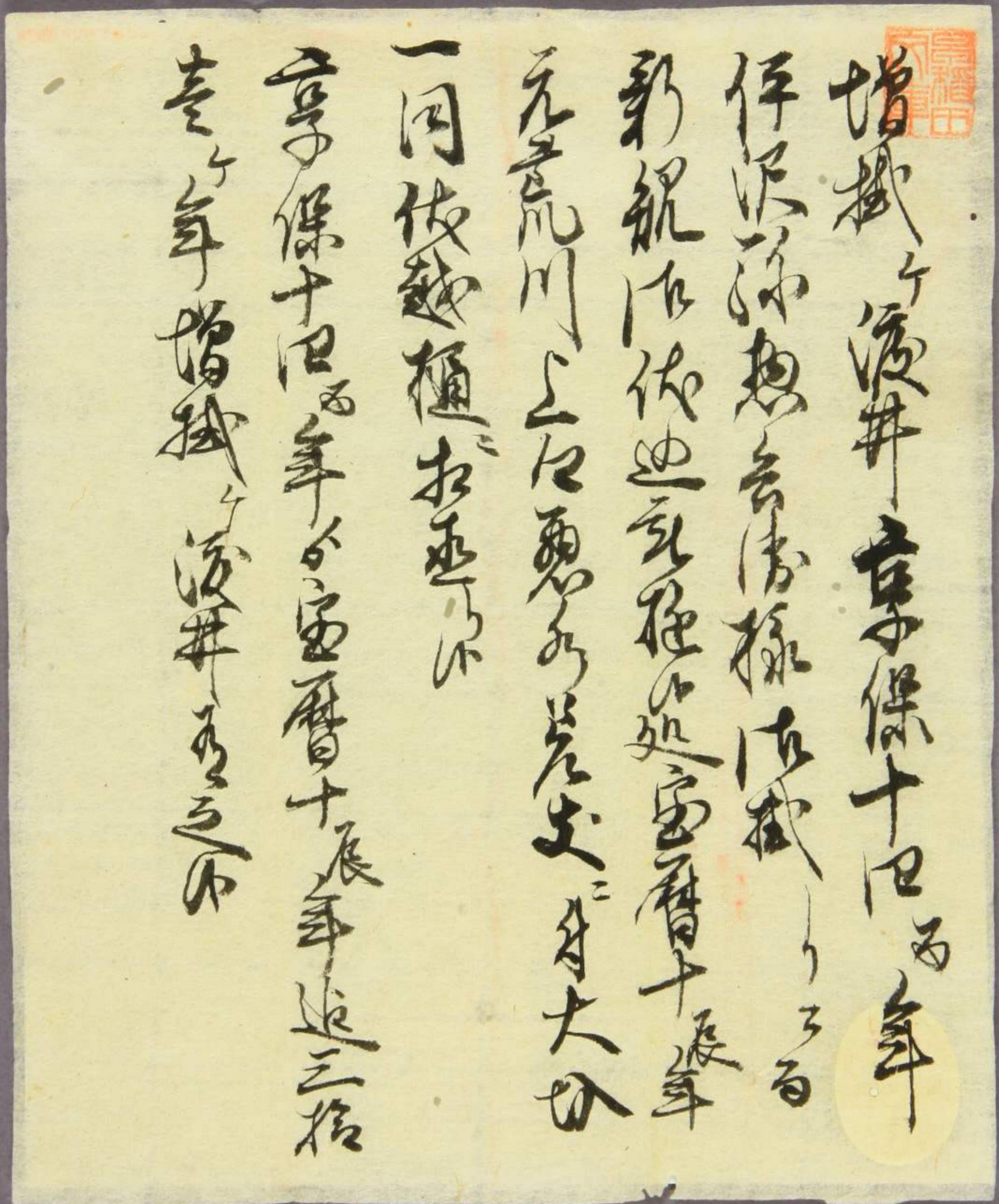
鑿^{ツバ}深^シ。



お^オほ^ホく^クな^ナく^クく^ク。
お^オほ^ホく^クな^ナく^クく^ク。
お^オほ^ホく^クな^ナく^クく^ク。



増城ヶ源井 古事記十四年
併入山の想を清源山の水
那観作也此處に在る高齋十一年
元氣川より西山の名也 大山
一月越通お西山
享保十四年六月廿日
吉午年増城ヶ源井古事記





三

今口田家書

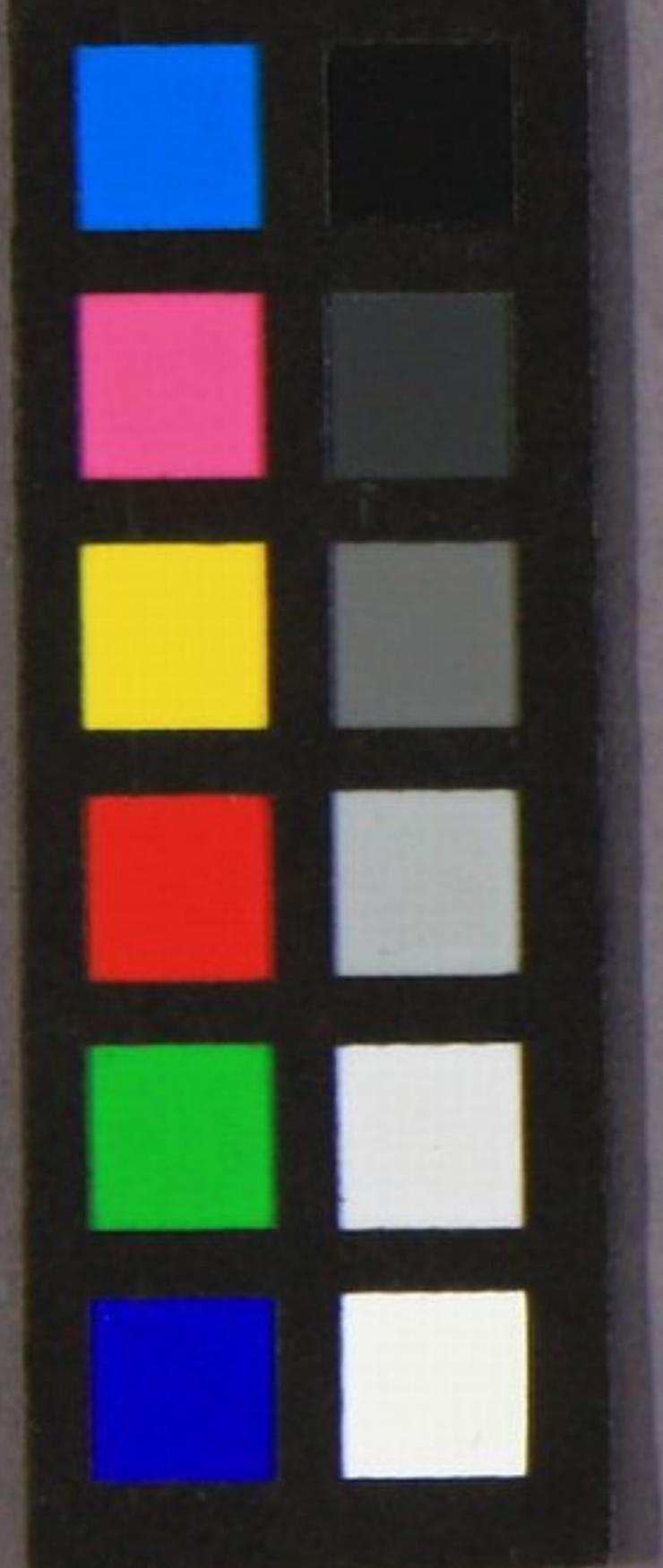
古事記傳通志功
ち藤氏
はるかに
のとく
のとく
のとく

九月
大正

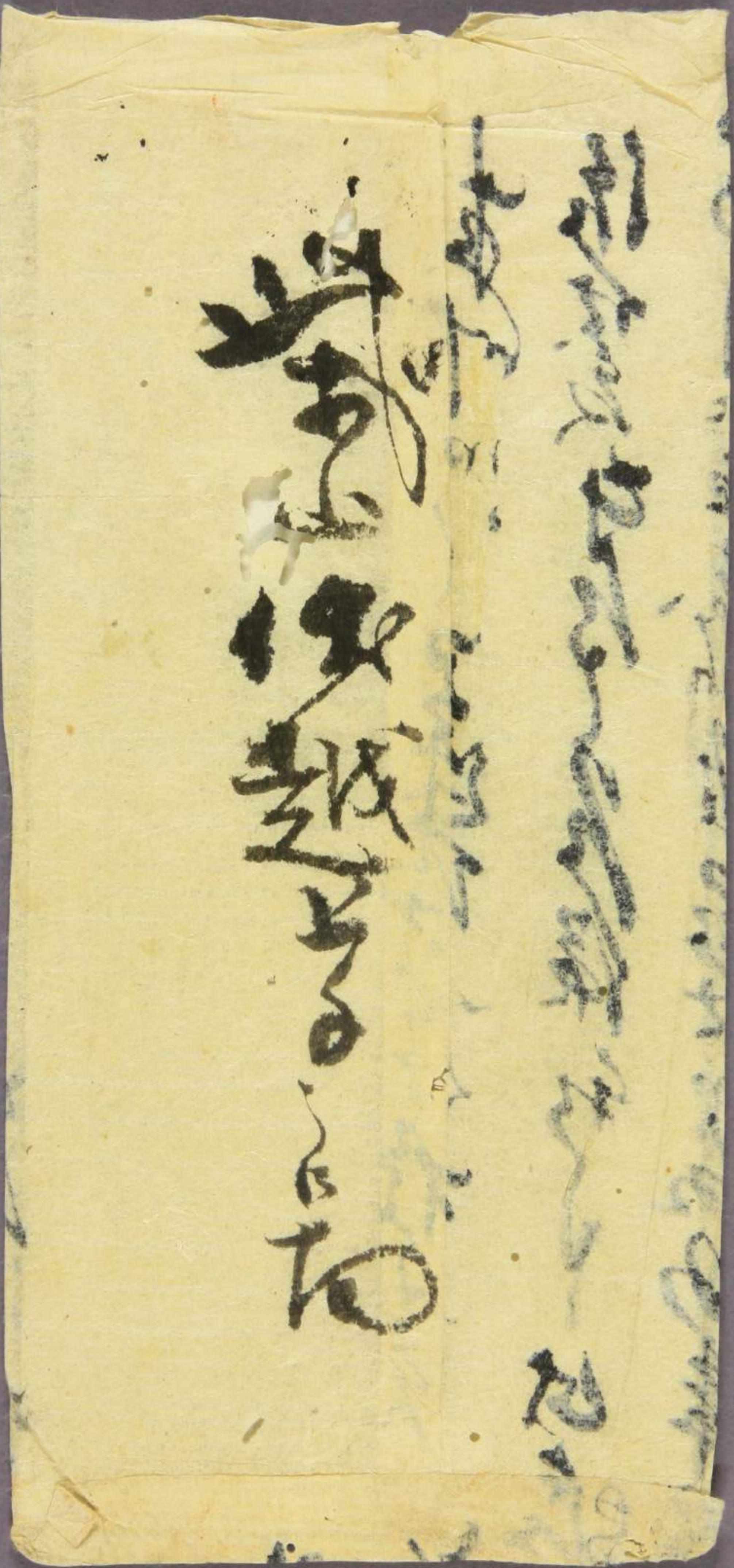
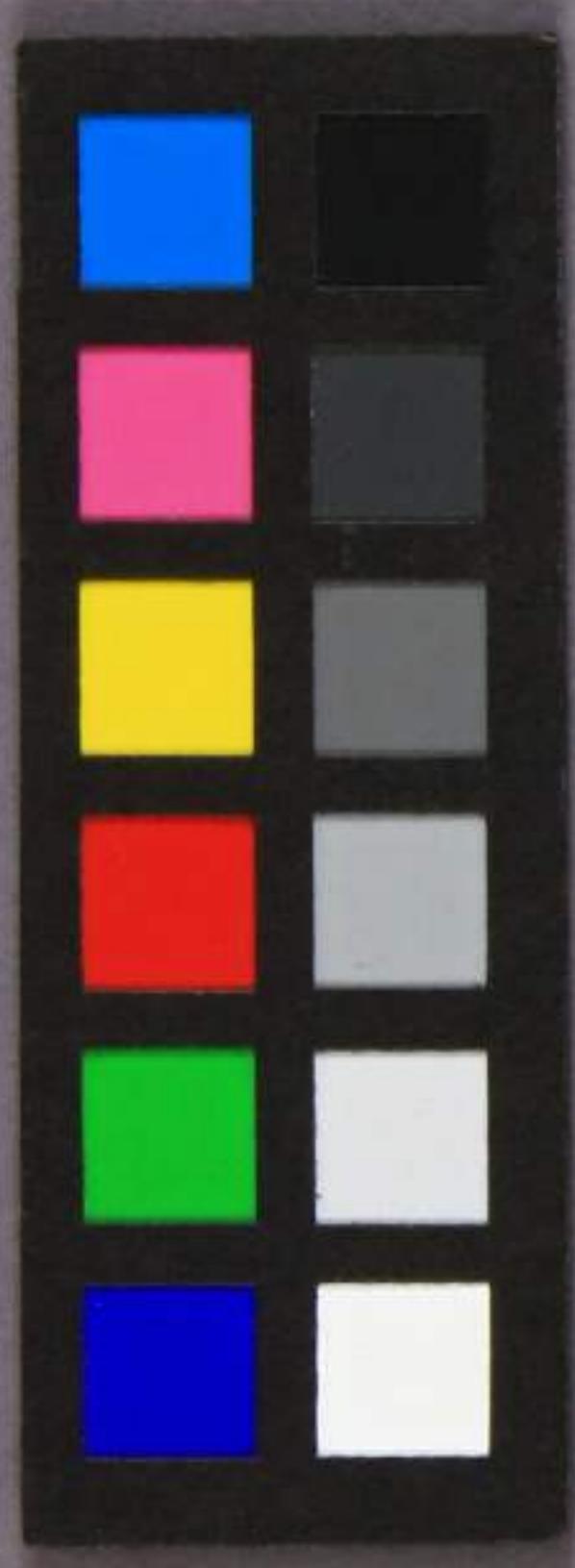


久松

九月



10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 JAPAN



7 8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9